















プログラム名	森の中でみーつけた！						
対象年齢	年長（5～6歳）						
ねらい	メッセージ	自然の大きさを全身で感じ取り、人間も自然の一員であるということに気づこう					
	発見・体感できること	<ul style="list-style-type: none"> ・地面を踏みしめる感触、音、土のにおいなど ・自然の中で生きぬく動植物たちの工夫 					
参加者のめやす	幼児	6×3グループ			／	支援者	4人
実施時間	30分						
フィールド (実施場所)							
	森・社寺林・公園	山・里	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園	
実施可能時期							
自然を感じるためのヒント							
時 間	活 動		●配慮・アドバイス◎アレンジ				
準備			<ul style="list-style-type: none"> ●コースは事前に下見をし、立ち枯れた木やハチの巣など危険なものがないか安全点検をしておきます。 ●森の不思議や楽しさを感じられるようにコースを選択しましょう (例) 歩くと落ち葉の音がしたり、森のにおいを感じられたりするところなど。 ●「カサカサ」「フワフワ」「パリパリ」等のいろいろな感触を体験できるようにします。 ●目を開けたときと閉じたときの感触の違いを感じるようにします。 (子どもたちの声) 「サワサワって聞こえる。下に落ち葉があるからや」 「バキバキって聞こえたよ」 「怖くなかったよ」 ●目を閉じて電車ごっこをする時は、安全面には充分留意します。 				
10分	①森の探検 ・電車ごっこで森を歩く  ・目を閉じて電車ごっこ						



時間	活動	●配慮・アドバイス◎アレンジ
15分	◎キツネとことり(かくれんぼ) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「キツネとことり」のあそび方</p> <p>①キツネ役がオニ、ことり役が森の中に隠れます。(キツネは目を閉じ10を数えます)</p> <p>②ことりが隠れたところで、キツネは最初の場所から移動せずに、視覚・聴覚でことりを探します。</p> <p>③ことりは常にキツネの様子を見ながら、隠れます。</p> <p>④キツネはことりを見つけたとき、指を指して「○○ちゃん見つけた!」と言います。見つけられたことりは出てきます。</p> </div>	●初めて行く場所では、子どもたち二人で隠れるようにします。  ●キツネ(オニ)がことりを見つけれなかったときは、ことりが「チュンチュン」と鳴いたり、木をゆらしたりして、ヒントを出します。 ●どうすれば見つかりにくく、何が見つかりやすいかを一緒に考え、自然の中では生き物はどのように工夫して生きているのか話し合います。
5分	◎ふりかえり	
【異年齢への対応】 ◆年少：・電車ごっこをしないで、その場で目を閉じて、音を聞きます。 ・支援者がキツネ役になり、各グループに支援者がついて一緒に隠れます。 ◆年中：・二人組みになり、1人は目を閉じて他方が目を開けて、森の中を案内します。 ・キツネ(オニ)が、その場で探すのではなく、探しに行くかくれんぼにします。 ・見つけたことりが集まる場所(キツネの家)を決めておきます。 ◆年少・年中・年長： ・グループ(年長・年中・年少)ごとに目を閉じて、その場で足踏みをして音を聞きます。枝や葉っぱの多いところなど、感触の違いがわかりやすい場所に移動し、同様に足踏みをして音を聞きます。この動作を繰り返します。 ・年長がキツネ役となり、ことり役の年長が年中・年少を連れて隠れます。		
【園や家庭に帰ってから】 ◆食事の場面で自然の物を食べている話をし、自然界での「食う、食われる」の関係(食物連鎖)について考えてみましょう。 ◆町の中や園(所)にいるときの音を意識して聴き、自然の中での音との違いを比較してみましょう。		
準備物・教材等		